

講義録レポート

講 座	証券アナリスト	科目①	経済
目標年		科目②	
コース	1次秋試験向け 科目別無料公開セミナー	回 数	1 回
収録日	2014 年 2 月 6 日		
講師名	小川 先生	講義録 枚数	2 枚 ※レポート 含まず
		補助資料 枚数	3 枚 ※表紙含む
講義構成	講義 (2 8) 分		
使用教材	①		
	②		
	③		
	④		
配布物	有 . 無		
	①		
	②		
	③		
正誤表	有 . 無	枚	
備考			

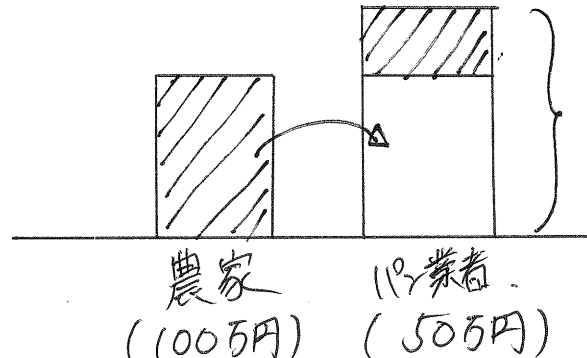
証券アナリスト 講義録		科目 経済	コース 1次秋試験向け 科目別 無料公開セミナー	回数 1
-------------	--	----------	-----------------------------------	---------

配布物	★ミニテスト：あり [] なし ★実力テスト：あり [] なし ◇配布物なし	★答 練：問題用紙・解答用紙・解答解説 ★その他のレジュメ []	講師 山口先生
-----	--	--------------------------------------	------------

テキスト ページ	黒板 内 容
	1次 経済 直前対策 ⇒ 問題演習 配点ウェイト 第1問 ミクロ経済学 25% 第2問 マクロ経済学 40% 第3問 金融論 15% 第4問 国際金融論 20%

証券アナリスト 講義録		科目 経済	コース 1次秋試験向け 科目別 無料公開セミナー	回数 1
-------------	--	----------	-----------------------------------	---------

配布物	★ミニテスト：あり [] なし ★実力テスト：あり [] なし ◇配布物なし	★答 練：問題用紙・解答用紙・解答解説 ★その他のレジュメ []	講師 山口 先生
-----	--	--------------------------------------	-------------

テキスト ページ	黒板 内 容
	例題 H23・秋 付加価値の考え方 (GDP) パン経済 (2段階)  最終生産物 (パン) 150,000円 // (等しい) / 付加価値合計 150,000円 農家 (100,000円) パン業者 (50,000円) 「売れ残り」は 在庫 と扱う。 IS-LM 分析 (財政政策 金融政策)

1 次 直前対策セミナー資料

2014/2

TAC 証券アナリスト講座

経済担当 小川

1. 1次経済・本試験の概要

- 問題数は 50 問強。試験時間は 90 分。90 点満点。
- ミクロ経済学、マクロ経済学、金融論、国際金融論の 4 分野から出題される。

第 1 問	ミクロ経済学	(25%)	
第 2 問	マクロ経済学	(40%)	
第 3 問	金融論	(15%)	
第 4 問	国際金融論	(20%)	カッコ内は配点ウェイト。

2. 直前期の試験対策

- 直前期は、過去問を中心に問題演習を繰り返すことが効果的である。
- 過去問の背景にある基本的な経済学の考え方やその周辺の知識を確認すれば、出題形式が変わっても対応できる。
- 計算問題の出題も多い。特に国際金融論では、国際収支・為替レート関連を中心に計算問題が毎回出題されるので、準備しておく。

3. 過去問の出題例

【平成 23 年（秋） 第 2 問・問 5】

付加価値の考え方に関する次の記述のうち、正しいものはどれですか。

- A 骨董品の価格が上昇すると保有者は利益を得るので、付加価値となる。
- B 生産されてから売れ残った製品には付加価値がつかない。
- C 生産額から賃金や利子、原材料費などのコストを引いたものが付加価値である。
- D 一定期間内に国内で生み出された付加価値を合計すると、その期間の GDP に等しくなる。

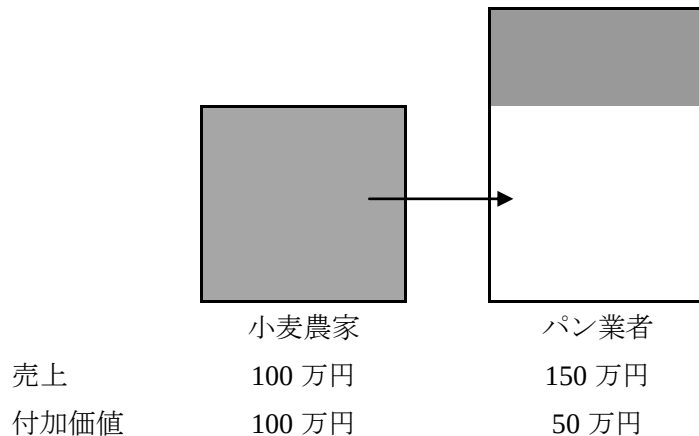
解答・解説

- A 正しくない。骨董品は過去に生産された財であるため、その価格が上昇しても付加価値は増加しない。
- B 正しくない。売れ残りであっても、今期生産された財であれば付加価値が発生している。GDP では、売れ残りとなった最終生産物は企業の在庫投資（在庫品増加）として計上される。
- C 正しくない。生産額から原材料費を引いたものが付加価値である。利子や賃金などの所得は付加価値に含まれる。
- D 正しい。

4. 過去問へのヒント

付加価値とは、売上から原材料費を引いた値である。一定期間内に国内で生み出された付加価値を合計すると、その期間の **GDP**（国内総生産）となる。

いま、簡単に2段階のパン経済で付加価値を考える。



小麦農家は何の仕入れもせずに小麦を作れるとすると、小麦の売上 100 万円が小麦農家の生み出した付加価値となる。

次に、パン業者が小麦を原材料としてパンを作ったところ、150 万円の売上となった。このうち、パン業者が生み出した付加価値は、パンの売上 150 万円から原材料費である小麦の価値 100 万円を引いた 50 万円となる。このように、前の生産段階で生み出された付加価値は、次の段階では原材料費となり、二重計上されないようになっている。

付加価値の合計（図のシャドウ部分の合計）は、100 万円 + 50 万円 = 150 万円であるが、これは、この生産段階での最終生産物であるパンの価値 150 万円とも等しい（最終生産物価値にはすべての付加価値が反映されているということ）。したがって、一定期間中に国内で生み出された付加価値の合計は、すべての最終生産物価値の合計と等しくなる。

GDP＝一定期間内に国内で生み出された付加価値の合計

＝一定期間内に国内で生産された最終生産物（財・サービス）価値の合計

付加価値は、その生産に貢献した生産要素（資本、労働）に対して、所得として分配される。資本提供者には利子や配当、労働提供者には賃金・俸給として、すべての付加価値は誰かの所得として分配され尽くす。